

<フィリピン・ミンダナオ島事業> 「子どもの教育と命を守る」



ICAN マニラ事務所
福田浩之
～プロフィール～
フィリピン大学修士課程、ICAN マニラ事務所インターンを経て、2013 年 4 月に入職。社会福祉士。

フィリピンには、1,400 万～1,700 万人の先住民が住んでおり、その内 61%は南部のミンダナオ島に集中しています。先住民が住む村では、教育インフラの未整備や収入の欠如、出生登録の不備、治安等の問題から、学校教育を受けられない子どもたちが多数存在しており、アイキャンは、同島で、1996 年より先住民の子どもたちへの学校給食や菜園活動、学校建設、奨学金・学用品の提供、先住民専用の教育カリキュラムの作成、地域の保健ボランティアの育成、衛生環境の改善啓発、親への生計向上活動、伝統文化振興等を実施してきました。そして、この 3 月は、同島中部に位置するブキドノン州の村で、水道整備の活動を実施し、約 750 名の住民が綺麗な水を利用できるようになりました。

当初、この村では、保健や衛生の概念が人々に浸透しておらず、生活排水が垂れ流され、水質汚染が深刻でした。多数の住民が赤痢等の感染症にかかり、中には、死亡してしまう子どももいました。また、足の痒みや不調を訴え、学校を早退・欠席する子どもも多くいて、学校生活に支障が出ていました。住民の間では、これらの課題を何とかしたいという思いがあり、汚染水が原因だということが分かっているながらも、どうすればよいのか、具体的な解決策が見出せずにいました。

そこでアイキャンは、まず、汚染水の原因について、住民と話し合いの場を設けることにしました。「細菌」や「感染」という概念を図で説明しながら、赤痢や皮膚炎の原因を学び、最終的に住民は、自分たちの使用している水を綺麗にしなければ、病気も無くならないし、子どもたちの教育環境も向上しない、という結論に至りました。そこでアイキャンと住民は、山奥の綺麗な水源を探し出し、そこからホースを引き、水道設備を建設するとともに、水道利用の規則の設定や維持管理方法の研修、基礎的な疾病の対処法や手洗いうがいの重要性を扱った保健・衛生教育等を実施してきました。



水道維持管理担当の住民は「汚染された水によって子どもたちが病気になるのを知って衝撃的だった。今は、水源を綺麗に保つこと、手洗いうがいを地域の子どものに教えることが、私の役目だと感じている。」と語ってくれました。どの地域でも、「自分たちの状況を変えたい」という意識を駆り立て、状況を改善するための道筋を見つけるための場を作ることが、アイキャンの役目だと思っています。今後もその役目をしっかりと認識して、先住民地域の人々の生活状況の改善に取り組んでいきます。

ある日のスケジュール

- 08:00 メール確認
- 09:00 現地職員との事業別会議
- 10:00 活動報告書確認
- 11:00 駐在職員との事業別会議
- 13:00 各種マニュアルの改訂
- 14:00 事業報告書作成
- 15:00 会計書類の確認
- 17:00 帰宅

フィリピン事業（ミンダナオ島事業） 3 月 / コタバト（フィリピン）

子どもが置かれた状況についての発表会を実施



ミンダナオ島マタノグ町及びピキット町の町役場において、ユニセフと協力して、子どもが置かれている教育、保健・衛生、社会サービスに関するデータの発表会を開催しました。マタノグ町役員のマラさんは、

「まだまだ教育を受けることができない子どもたちが多くいることを知り、何とかする必要があると感じた。町職員と一緒に話し合って現状を改善していきたい。」と話しました。

ボランティア活動推進事業

3 月 / 愛知

フィリピンでの活動を伝える写真展を開催



アイキャンと中部電力グループのボランティアによるフィリピンの子どものための環境教育活動を紹介するため、名古屋市のでんきの科学館にて写真展を行いました。ボランティアの男性は、「写真展を通して、子どもにもこの活動や現地フィリピンの子どもの様子を知ってほしいと思う。」と意気込みを語り、2 月 27 日～3 月 5 日までの 7 日間に、一般来場者に広く伝えました。

ジブチ事業

3 月 22-23 日 / タジュラ（ジブチ）

子どもの権利等に関する研修



イエメン難民キャンプの「子どもの広場」の活動を支える青年ボランティア（アニメーター）に対して、子どもの心理・子どもの権利・リーダーシップの 3 つのトピックについて研修を行いました。実際のキャンプでの活動経験を基に、活発な議論や質問が交わされました。参加者は、「研修を一緒に受けた仲間との絆も深まったと感じる。リーダーシップについては新しく学ぶことも多く、有益だった。」と感想を述べました。

議論や質問が交わされました。参加者は、「研修を一緒に受けた仲間との絆も深まったと感じる。リーダーシップについては新しく学ぶことも多く、有益だった。」と感想を述べました。

スタディーツアー・海外研修事業

3 月 / フィリピン

フィリピンにおいて海外研修とスタディーツアーを実施



長野県上田高校の生徒 20 名が参加の海外研修と、一般の方々 5 名が参加のスタディーツアーを、それぞれ実施いたしました。アイキャンの事業地訪問や、現地の人々との交流を重視したプログラムの中で、参加者からは「人の暖かさに触れたり、格差の激しい残酷さにも触れたり、様々な人の価値観に触れた。たった数時間の交流で別れるのが寂しいと思ったのは人生で初めてだった。」等の声をいただきました。